





頭書增補訓蒙圖彙卷之四

人物

此部小の士農工商その外異朝乃國俗をて一さいの人類のわのひもあり

公

○公の三公方々
太政大臣 左大臣
右大臣と三公といふ
内大臣といふ公あり
唐名の大帥 大傳大
保といふ補圖なる然
束帯は圖あり束
帯小の帯 釵あり是
公卿ともに式禮乃
服ありくつも靴は
あり



頭書增補訓蒙圖彙卷之四

○卿ハ公卿ナリ
 大納言中納言ニ
 位以上ト公卿ト云
 又月卿トモ云
 天子に付きひまふ
 故の名冠ニ位以
 下ト教上人ト云
 圖トモ云ハ衣冠
 のてあり是常
 ノ服少ク裾多く
 下ハ貴方々
 束帯ハ一ト云
 装束の色面位以
 二ハ黒五條ハ赤六
 位ハ青色多ク



○士ハ士ノ位也
 学文ト云
 位にあり
 学士ト云
 文官トモ
 巾着ト云
 帯ト云
 武士ト云
 士農工商
 四民ト云
 士農工商
 商人ト云
 士農工商
 士農工商



頭書曾補川...

○ 嬰あひ人ひと始はじてひまる
 〇 孤あひ嬰あひ兒こといふ胸むねの
 赤あかと眼まなこといふこと
 嬰あひ赤あかといふて乳ちち養やしやう
 と故ゆゑふ嬰あひといふ女むすめと
 嬰あひ女むすめといふ兒こといふ
 〇 童わらわの男おとこ十五ごじゅう以下げと
 童わらわ子こといふ童わらわの獨ひとり
 あり言いひまゝ室むろ家か
 わらわらあり鬚ひげ子こ
 總あひ角かくこれ童わらわ子こ乃なり
 事ことわらわ
 〇 翁おきなの長ちやう老らうの稱なづ也
 又また人の父ちちと稱なづく
 翁おきなといふ雙ふたご同どう



〇 女むすめのいふごと
 嫁よめといふと
 女むすめといふ
 といふに嫁よめ
 といふに嫁よめ
 といふに嫁よめ
 といふに嫁よめ
 〇 波なみの姫ひめ媼おん
 といふに嫁よめ
 といふに嫁よめ
 といふに嫁よめ
 〇 早はや波なみといふ
 といふに嫁よめ



頁書通海川大回東本

頁書通海川大回東本

○農の厲山氏子
 わる農と
 名はく
 百穀とうゆる
 事候能と
 よく物と
 作らものと農人
 との又神農
 五穀と植
 る事と人
 をやふとく
 農と名
 づるとも
 つらと
 つらと



農のつら

頁書書曾川長久國東松田

○兵の武具の
 惣名あり
 今甲冑と
 帯とら武士
 を兵といひ
 あつらせり
 我同一
 頭する者候
 将といひ候者
 と士卒と
 つらと
 軍兵など
 軍勢の士卒の
 惣名あり



兵のつらもの

頁書書曾川長久國東松田

○工の百工とて
 乃惣名を
 工匠ともいふ
 本工の大工なり
 漆工
 補 塗師也
 其外指物
 縮布織物
 金物まじく
 是と職人と
 もいふ也



工
 たく
 だく

○高のひき人
 又わきびと也
 居かぎる賣で
 賈といひら
 けさて
 うら高といふ
 高と書へ
 高とわい
 わやくんとかう
 高賈通用を
 人乃事多
 販といひ
 賣事
 ナカ



賈

現銀かき紙は

呉服物太物類

商
 わ
 び

貞書普補川波圖景卷石

○ 醫 國 病 治
 酒 飲
 藥 製
 西 字
 和 氣
 丹 氣
 信 人
 〇 ト 〇 〇 〇
 赴 あり 末
 者 の 心 赴 あり
 急 と 物 あり
 又 著 と あり
 あり



○ 膳 夫 腹 部
 今 〇 〇 〇
 料 理 人 あり
 庵 丁 と 〇 〇 〇
 解 事 〇 〇 〇
 今 〇 〇 〇 〇
 又 〇 〇 〇 〇
 又 膳 夫 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇
 あり



頃書曾浦川波図景巻五

〇畫工の繪師
 唐の唐ふの名
 画の唐ふありて
 〇日奉て
 巨勢の金剛
 古法眼元信又
 雲舟かどひじ
 の名西あり中
 古の永徳探幽
 〇名ありあま
 〇土佐家の
 禁裏の絵師
 あり



〇祝の系に賢
 詞とつとつと
 者ありとあり
 〇祝の系に賢
 詞とつとつと
 者ありとあり
 〇祝の系に賢
 詞とつとつと
 者ありとあり



頁書曾浦川...

○僧の浮圖乃
 教に去る者
 なる沙弥沙
 門者比丘苾
 芻もいふあり
 又僧正僧都上
 人和尚長老を
 補僧官あり國師
 大師号あり
 ○尼の女僧なる
 比丘尼あり佛の
 四部の弟子あり
 尼姑もいふ
 在家門ふるとて
 僧官異あり



○鍛へ磨り
 推鍊なる
 金以治る
 鍛へ鉄と
 鍛治といふ
 似るるより
 にひりより
 わやゆり
 鍛治といふ
 みるかな
 といふ



頁の僧の浮圖乃

頁の僧の浮圖乃

○陶家たうかハ土つちヲ
 茶碗鉢皿ちawan hachiwanナド
 つくつくルモノトシテ陶たう
 治ちトシテ瓦わ瓦わ
 さくくさくくアリ舜しん
 河濱かひんニテ
 くらととくらととり志し
 ままいいくくハハ舜しん
 んんハハああととととり
 ○治ちハ鑄ちゆう匠じやう也也
 爐ろ匠じやうトモトモハ鍋なべ金かね
 火ひ鉢はち其その外ほか金かねぞぞ
 具ぐハハ瓜うりののあり
 唐たうのの虫むしととしし
 りりののつつららととしし
 たらたらや



○鬼きハ死しししくく
 肉にく骨ほね玉たまハハ飯いひくく
 血ちハ水みづハ飯いひくく魂たま
 氣きハ天あまハ飯いひくくをを
 の陰いん氣きセセキキをを
 存ぞんししテ依よととらら
 介けハハののららががゆゆはは
 鬼きハハああととととり
 ○仙せんハ遷せんあり死し
 仍なほししテこのこのああり
 かしかしこのこのああり
 子こハハ仙せんハハああり
 づづ補ほ唐たうににああり
 五ご和わ朝あさハハ久く米まい
 の仙せんハハああり



頁ページ目録目録神神川川とと又又同同景景目目

○佛ぶつの西方さいほう乃なり
 聖人せいじんなる
 如来にょらいももつ
 佛ぶつの人ひとふ弗ふ
 とし凡人ふつじんよ
 わるき色いろは
 カノミ



○樂がくの八音はつおんと
 奏そうするあり
 樂人がくじんとも
 黃帝わうていのとき
 伶倫れいりんといふ者もの
 樂がくとよくと
 伶人れいじんといふ
 樂がくの管くだ弦げん
 ともいふ日本の
 樂がくと神かみ系けい
 とのいふかぎ男おとこ
 カノミ



俳優えいゆう こゝろ
 俳優えいゆう ざうけ
 〇俳優えいゆう ざうけ
 ありとあり
 去りていふ
 ねえ際ねえの
 まづい
 猿さるの
 遠ちかひわ
 素そ衣い馬ばの
 みろと
 りんりん海うみと
 りん



俳優えいゆう こゝろ

〇深ふか近ちかのふや
 御み衣い茶ちや深ふか屋や
 どののふかり
 〇登のぼ婦とのこ登のぼ
 ひひくくととんん
 ともとも女にあありりけけ
 親おやににあありりああ
 女にあありりて
 登のぼととんん
 ひひととあありり
 衣いのの糸いとはは本もと
 ききととんんととんん
 ともとも親おやにに
 ややあありりととんん
 んんふふととんん



深ふか近ちか
 登のぼ婦と こゝろ

○硯の黄帝玉板
 以て始と遠の
 表と黒と墨池と
 ○銀匠の白の
 どの刀のさう目
 費入鍼のさく
 人あり
 ○玉人の玉と琢磨
 どののありとよ
 つまらぬと玉と
 海よりゆると珠と
 ○櫛ハ伊井諾の
 の師とさほけりえ
 どのより是と揚
 津の凡櫛と
 といふ

○烏帽子折の系
 都室町三条に
 わる烏帽子の立
 烏帽子は右左
 の着しあはれ
 風折梨打た
 右折小結荒目
 等あり
 ○襟匠の令
 表具師の
 事なり
 表補とも表襟
 ともいふ表
 紙も同



百廿四番川...

○傘工雨傘日
傘挑灯とんか
さく人あり
○皮匠の今つて
袋屋かどあり
又切付屋とく
皮さくとも人
ともいふ
○針磨の京姉
小路の石物なを
今二三条寺町の
名に多くあつん
すやといふ者長崎
より針とてなせ
賣弘めよりより
針



○牙婆の今つて
とあひあり夜
粧とさもつりく
うつとつとつと
かり
○筆工の筆繕
筆いりんうに
て蒙帖といふ人
はくりとつとつと
○薦僧の梵論
もの梵論字漢
字ともいふ又暮
露とも書あり尺
八とつた諸ふと
りともかり



頭書曾南川蒙園集四

○石工の石を切て
 石垣石焼石
 橋石塔石と
 ありのありありと
 器仗つらふとい
 人ともいふは
 蓋とりつと者
 いやふふありと
 ○巧者の今つ
 た富あり巧人
 とも泥工とも泥
 匠ともいふを
 巧い柄ふつと
 電の介土と
 とりのも目ト



相撲使
 ○相撲の乃見
 宿称と
 振速と
 角抵と云
 脅力と
 カ



角抵の相撲川

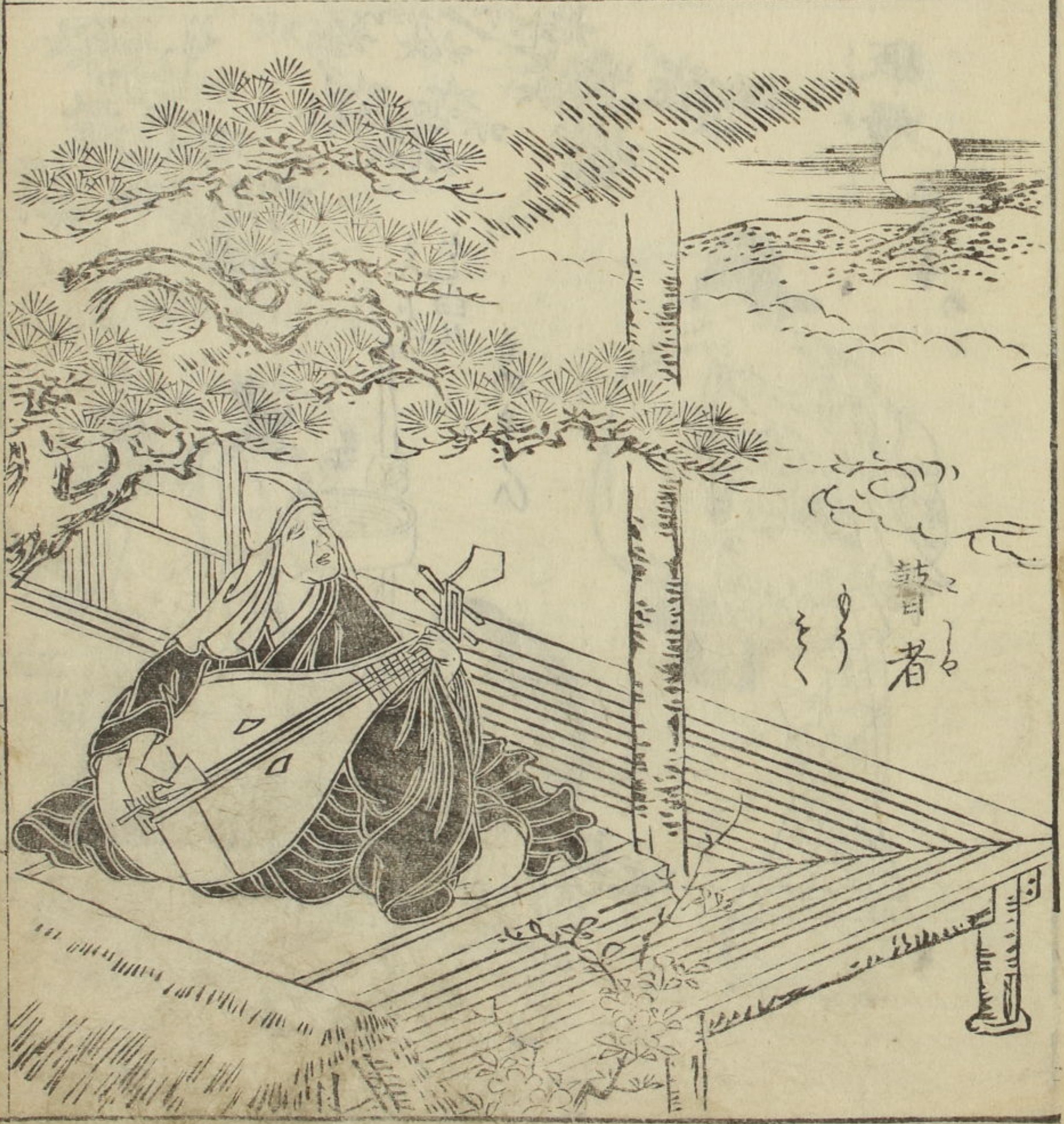
○扇のゆかり
あまの舞と
ののみをほろり
とどめあふ
日本はくわい
神功皇后の
さだ蝙蝠の羽
とんくつかり
とめしとあり
京はくわい
賞と賞と
○漆匠のうら
さくさくめ
とつみ今
塗師といふ



○侏儒のくち短
き人といふ今
一寸ばかり短
人といふ
○駝背のせい
医書やくん
どの背のさる
と索駝といふ
に似る人といふ
人と駝背といふ
○免唇の缺唇も
免缺といふ
赤子のとき
の外科ふ切ぬ
と成人して
えぬものあり



○瞽者ハ目ハ死
 ありあり盲
 目盲人も
 論語小見
 者と瞽者とは
 又琵琶法師も
 ひろみ弾ト平家
 三弦と今ハ琴
 檢校向當四分
 ながて位階
 わを



順書曾南川家圖景四

○獵師ハ弓
 鉄炮と
 鳥獸と
 のあり
 慮義氏乃世
 天下に獸多
 田島と
 夕の故
 獵と
 冬の獵
 わりとも
 海河
 魚魚獵



順書曾南川家圖景四

○漁父いさか
 ざつとるもの
 かりと煙人氏の
 せふ天下に水
 びやう故ふ人
 にあゆま
 漁とゆつとを
 今獵師と
 いふあり
 ○舟子ハ今ハ
 船頭あり海
 と波を舟ま
 又笑ユも棹
 ふともつ佃
 川舟よも紅



舟子 漁父

○販婦いあさ
 あいととる
 女とつ買婆
 都ふいさか
 鄙ふあや
 乞兒い乞馬
 たり又乞
 舎とも
 のゆい
 あり又非人
 ともい
 人非人かのみ
 あさ



販婦 乞兒

順書曾補川歌圖景四

順書曾補川歌圖景四

〇鏡造鏡と
 つの神代ふ
 天の糠戸といふ
 神天照之神
 の市親と
 うろくして始て
 神つくりあへて
 鏡の次善悪
 とつるもかの
 曲直瓜
 正し汲みんぬ
 かなんとも
 神前鏡と
 樹もこの
 〇鏡造鏡と



鏡造鏡と
 〇鏡造鏡と

〇牧童の廣野
 あく牛馬
 に牧とる
 童かり牧童
 遙指杏花
 村と詩小
 も他より牛飼
 〇詩小
 牧童寒
 笛倚牛吹
 つるも志平
 〇牧童の廣野



〇牧童の廣野
 〇牧童の廣野

〇娼婦ハ倡優と
 て女の樂と羨する
 のあり娼ハ強マ
 カク倡と書ベ
 又倡妓ともいふ
 是むの事は
 今の絶て方な
 て聞及中比白
 拍子とらふの
 今ハ遊女舞子
 カとの類あり
 傾城又傾國など
 なるんじり
 わるやうに
 及びあり

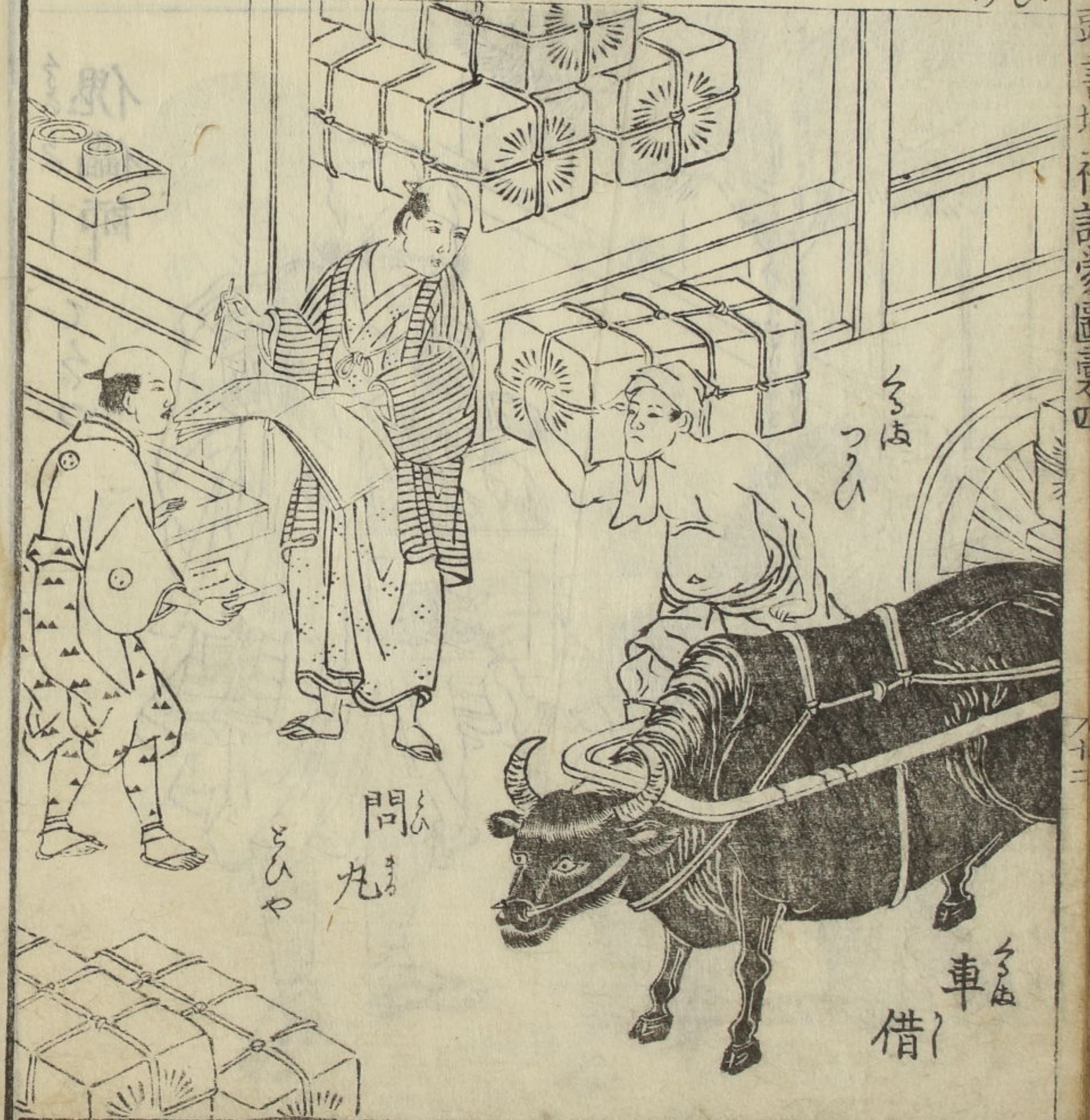


又懸工ともいふ
 詩繪師と
 〇此類の
 〇渉人の渡
 守なり
 大河小川と
 舟はくむ
 ふのき人
 大海中は
 性来の人の
 たるけと
 あり



頁上言通川波図景四

○車借の車つゝひ
 の事あり多御向
 川ふあはし庭訓
 にえらり今んさ
 其外あはしにわさ也
 天子の車つゝひと
 御者とも徒御と
 も舎人ともつゝ
 ○問九の今つゝひ
 乃の事あり音
 乃相場毎毎日同
 あんらるる御あり
 ようく問をと云
 又道中あて問を
 とつゝひる御與と
 物とあり



○馬借の馬奴
 又馬口旁とも
 乃大津坂本の
 馬借と庭訓に
 わり今んらる
 とる借といふ
 る口旁といふ
 別小わりて牛
 の賣買れせと
 とも者あり
 ○伯樂の馬の病
 とてらるる人
 狐伯樂といふ
 一の京室町よ
 けるふや室町の
 伯樂と庭訓に



○土器の京
 西山嵯我
 又北山畑枝
 下の深草色
 土をほくり出
 せり庭訓
 にも差裁
 かりけとわり
 ○大系の黒木女
 京北山大系
 黒木とて
 きて系に出て
 わさあふ事い
 びり平九惟盛
 の妻河波の内宿
 平家亡びて後



おたうに怪
 てせり
 のごめ賣あひ
 する始まり
 そのかう八歌
 又の雲が畑る
 雄の梅が畑あど
 ほか女本菜
 とわさあふ事
 ○屠者の牛馬の
 肉と屠割の
 かり今つ
 穢多かり
 又屠見とも
 つらあり



○中國中華とも漢
 とも唐ともいふをたは
 海も明といひしが鞞
 鞞小とていふ今へ大
 清といふもやこあり
 ○朝鮮國のひうの三
 韓とて三國なり新羅
 百濟高麗といひしが
 今の一國とある日本小
 ちていふなり
 ○琉球國中山國と名
 つく日本にあつたり男
 羽衣といふく冠と
 珠玉といふる女百羅
 とりて帽とて雜
 毛と衣とと



○天竺の仏出づる
 まゝ大國の大熱國
 かなる國内小聖水の
 つくく風濤とや
 商人琉璃の壺は
 りく水といふる
 ○蒙古の鞞鞞の一種
 ありひう日本へ攻め
 神風ふ吹破らまると
 かり是と蒙古國
 裏といふあり
 ○肅慎の女直とも女
 真ともいふ國人は
 くちて道とゆへ
 鳥のちぶとていふ
 てあはれと名づく



頂書曾補川蒙圖景日

頂書增補川蒙圖景日

○占城のちんせん
 とり安南に近
 き國力も大象
 多し多し必小鯨必小鯨を
 公事公事詔新詔新の者
 わりて補狸非狸非分明
 かなかなの鯨鯨あふふ
 科科あふりの鯨鯨と
 きき瓜食瓜食ととり
 ○安南國の交趾
 とも東京とも云
 男子男子の盗盗とこの
 女女の淫淫とこの女
 をめをめととふ媒媒
 ちちつつわわのの合合國國
 に肉桂肉桂あり補他國他國



占城
 ちんせん

桂桂と上品上品と
 ○暹羅の國小海
 濱濱あり補男子男子の
 多多たたうう湯湯瓜
 ささ甘波甘波非非とも
 つつはは國國のの深深をを
 みみせせくく日日ををににああや
 むむららととつつあり
 ○東番東番いた補たたとと
 ともとも又又なないいんん國
 ともともいいんん安南安南ににちち
 きき多多ひひととああり
 補補ひひ國性國性耶耶のの
 國國ははささららととりり信信と
 一一かりかり今今唐唐にに後後



安南
 わんなん
 かつち

暹羅
 せんら
 ちやじら

東番
 とうばん
 たくご

○南蠻の阿媽港
 人あり阿蘭陀も
 け類なるをて
 南の嶋國とめん
 なんとつ其品類
 多くわつて人物
 種々にまきり
 西のあびと西
 戒といふ是もその
 數多くわつて
 ○東夷の蝦夷人
 あり人物勇猛に
 ちて常小山野
 出て獸と射とり
 又い海中の魚類
 とつて食とを

惣として中國より
 東にある島國は
 東夷といひ西は
 嶋國と西戎といひ
 南にあるは南蠻
 といひ北はあつた
 小狄といふ
 ○呂宋の島
 て中國ふらつて
 必ありて器と
 製衣一絹とあり
 つて
 ○長脚の足が
 國ありて
 る幸獸の

南蠻
 みまの
 あびと

東夷
 ひげの
 あびと

呂宋
 るとん



長脚

わ
 か
 が



貞吉曾補川峯圖景

○崑崙崙の西南
 の海中に嶋國也
 その人物色々
 きこく黒漆を
 こし海底に
 自由狐を
 よくきん小のり
 こゝ狐場と
 ようく異國の渡
 海の船ふり
 此崑崙崙と
 くりとせ小色
 黒さものと崑崙
 坊とふり

崑崙崙



崑崙崙の西南の海中に嶋國也

○長臂月國の
 東海の
 國人も多
 して地ふ
 布衣と
 長一丈三尺八寸
 又臂力
 又ふもわ
 無臂國
 又臂ひ
 あり二臂國
 とふり

長臂國



長臂國の東海の國人も多

○小人國此國東
 方にあり身の長
 九寸二尺五寸と
 もつひ國は鶴よ
 似たる鳥ありて小
 人よりちるるを
 おとれてひらりめ
 こゝにありまらる
 たらゆくとつり
 ○長人國へひら明
 加の人難風小船と
 吹かかきてあか
 島にのり人の長
 一丈余ありて水
 とあふまらり

豆言草 神言場 區 東 四



長人國

小人國

せたりおま

こびとま

河野

2.4

